
超次元ゲイムネptune～絶望はこの身に希望は我が手の中に～

燐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超次元ゲームネプレュース～絶望はこの身に希望は我が手の中～

【Zコード】

Z9114Y

【作者名】

燐

【あらすじ】

彼女達に希望を口は絶望を背負うと決意した少年は冥獄界で静かに眠つていただがある出来事をきっかけに再びゲームギョウ界に舞い降りた人間としではなく女神の対極した存在である冥獄神『ブランドイハート』として混沌と破滅に進むゲームギョウ界を目の前に少年は何を思い行動するのかそして少年の前に最大にして最凶の敵が立ちふさがり史上最悪の封印がいまここに解かれる！

少年は仲間と協力し女神を救うことができるのか！？再び世界を守

る」ことができるのか！？『超次元ゲームネプテューヌ 黒闇の騎士』の続編これはオリジナル多いよ～！

プロローグ（前書き）

始めてしまった・・・まだ決めたところまで外伝進めていないのに期末中なのに・・・とりあえず更新は遅めだと思いますがどうぞよろしくお願いします！

プロローグ

ゲームギョウ界という一つの世界があった

別にめずらしくない至つて普通の世界の筈だった世界を滅ぼす悪と戦いそして勝ちそしてまた悪が現れ女神と言つ存在が悪を滅ぼすそして最後は一からやり直しつでもそれで永遠に変わることのないそんな世界にある一人のイレギュラーにより全ての法則が壊された

少年はただ守りたかつたそして認めたくなかったゲームのようにはじめから、おわりまで全部が決められたこの世界が嫌だった

ゲームギョウ界にある四つの大陸

革新する紫の大地
『プラネテコース』

重厚なる黒の大地
『ラステイション』

雄大なる緑の大地
『リーンボックス』

夢見る白の大地
『ルウイー』

少年は渡り歩いたあるべき自分を探した・・・そして絶望した自分はこの世界の住民ではないイレギュラーだとだけどその中でも自分の居場所を見つけることができた彼は頑張つたがむしゃらでただ守りたい一心に全てが無駄だということを知るまで知つてしまつたとき彼は再び絶望したしかし彼を支えてくれる仲間がいた。

だから頑張れたなんども真実に打ちのめされてもそれでも突き進んだ自分がやつていることに正しいなんてないけど自分はそれがいやだから

一緒に訓練をした彼女を

一緒にゲームをした彼女を

一緒に読書した彼女を

一緒に笑い合つた彼女を

居なかつたことになんてできない

そんなことは求めないと自分は人間ではないナーナ力でもこの思いはこの感情は人間だと信じているから

少年は力を欲したそれが禁断の力でも構わない彼女達を守れるなら
それでいいそして少年は『神』になった

絶対的な武装を手に
搖るぎなき信念を心に

それは同時に世界を守護する彼女たちと対極になろうつとも彼にもは
や迷いなんてなかつた

そして少年は

定められた因果を
変わらない運命を
決められた物語を

そして世界すらも破壊した

超次元ゲイムネptune～絶望はこの身に希望は我が手の中に～

・・始ります

プロローグ（後書き）

今日はこれ含めて三回更新する予定

絶望の始り（前書き）

今日寒い・・つす

絶望の始り

そこは地獄とこには優しく「」場とこには無残な場所そのなかで漂う『悪』があつた

その『悪』には拳があつた無骨で人のような五本の指でけれど繋がつてゐるのはモノはあまりにも異常な姿だった。

四つに分かれた黒いコートのようなものに入らしき顔を全身に浮き出でいる身体それの存在に顔はなく代わりに胴体に血走った一つの眼が迫りくる四つの閃光を捕らえていた

——魔皇の神域セブル・アンドロメダ

それは何かに繫がつていたその根元には全身を漆黒色の飾りげのないコートで覆つており男なのか女なのかそんなことも一体何を見ているのかもさえ分からない

「はああああ……」

「てえええい……！」

紫と黒の閃光が迫りくるその誰かは眼中になさうにただ立つ立くが、すが彼を根元に生まれた『悪』はその剛腕を振るい振り下ろされようとした刃を弾く

「そこです！」

両手を塞がれガラ空きとなつた背後に緑の閃光はその手に大型ランスを手に大気を貫きながら疾走するが四つに分かれた布切れは意思を持つようにランスは包みこみそのまま地面に所有者」と叩き込んだ

「叩き・・潰す！！」

更に上空に戦斧を持つた白が流星の如く降つてくるが一つだけの眼が白を写した瞬間、極光が放たれ反撃も許さず白は地面へと落ちた

「ブラン！」

紫が仲間である白に声を掛けた瞬間抑えていた拳が太刀を弾きそのまま裏拳を叩き込まれ壁に埋まり沈黙する

「・・・・・つ・・・！」

もう一人拳を抑えていた黒が舌を打つ誰かはそこで誰かはこの戦闘で初めて（・・・・・）見て黒をして・・・

「・・・潰れる」

そう呟いた

「ぐつ・・・・・」

自分の武器」と地面に叩きこまれた縁が置き上がる日の前の光景に

目を疑つた白は全身を焼かれたように赤色になり黒は壁に叩きこまれ沈黙化しており紫は地面を一体とされ動く気配を全くさせない・・・自分を覗き全滅・・・その言葉が頭を過つた

ぱちぱちぱち

紅い大地で突如手をたたき合つ音が響くその音に誰かはその方向へ向くそこにはまるで天使のような翼を広げその逆な邪悪な悪魔のような笑みを造りその手には死神を思わせる大鎌が握られていた

「見事だ」

ただ一言呴くその反応に誰かは喜びも悲しみも感じない顔も全てが見えないほどにフードを深く被つているからだ

「こいつらめ・・・捕縛するでいいんだよな」

誰かは彼女に問う。彼女は満足げに頷き誰かは縁とは違つ紫を叩きつけた壁に向かつて歩き出した

「――」

まずいと縁は痛む身体を無理やり動かそうとするあそこはあの子がいる――

「ふつ・・・」

後ろから零れる女性の声振り向き」とさえ許されず縁は意識を殺さ

れ地面へと墜ちる

「に・・げ・・て・・」

紫が必死に声を上げる自分以外の誰かに訴えるように誰かは紫の前に立ち自分の背後に浮かぶ『悪』に指令を送る

「・・ね・ふ

無情にも言い切る前に『悪』の拳撃は紫に叩きこまれた強大な力の前に壁に亀裂が入り紫ごと空中へ放り投げられる

「お姉ちゃん――――！」

「ひつ……！」

紅い大地の中で一際目立つ桃色が砕けた壁の中から姿を現す紫は空中を数回回り地面へと墜ちるもつすでにその目に光は灯っていない

「おねがい……もつ、やめて……」のままじや………」

前を向けばそこには『恐怖』があつた女神達四人を相手に圧倒しその背後には自分の姉に止めをさした『悪』

祈るように手を合わせ彼女を見ながら誰かは興味無さそうに背後の『悪』に指令を送る

「ゲームギョウ界が……！」

ゆつくりと拳を彼女に狙いを定める抗つ力を持たない彼女はただ訴えることしか出来ない

「壊れちゃうよ　　！　！　！」

拳は降り下ろされ辺りに静寂が訪れた

20XX年

ゲイムギョウ界は再びマジュコンヌの脅威に曝されていた

設立された犯罪組織『マジュコンヌ』と呼ばれる謎の組織の出現。

違法ディスク『マジュコン』と呼ばれる奇妙なアイテムを大陸全土にばらまきそれによりショップは枯れ

クリエイターは飢え、あらゆるギョウカイ人が全滅したかに思えた。

無法世界とは縁遠いゲイムギョウ界も、マジュコンヌの登場以来、人々のモラルは低下の一途をたどるばかりで、もはや大陸人口の大半はマジュコを崇めつつある

取り締まるべき政府も何故かスルーしまくりで、とにかくゲイムギョウ界は滅茶苦茶に、そこらの民度の低い無法世界になりつつあった。

そんなゲイムギョウ界の対になるモンスター誕生の裏世界『冥獄界』では……

絶望の始り（後書き）

四女神を相手に超余裕のチート、マジック・ザ・ハードが優しい？
とつか柔らかいです原作とはちょい違いますから生まれが

『覚める冥獄神『フラッティハート』(前書き)

わあて・・べいじょ

目覚める冥獄神『フラッティハート』

肉が裂ける音
断末魔の雄叫び
異形の咆哮

魑魅魍魎の存在が蠢きただ渴きを潤すためただ殺し合つ

生きるために
快樂を得るために
自由を得るために

そんな理由があるかも知れないかも知れないだがそんな混沌とした世界でも唯一モンスターが近づけない場所があった

名前はないただ中世を感じる屋敷だが日が痛くなるほど真紅に染まっているだけ

「.....」

誰もが硬直する黄金と真紅の玉座に座る黒髪の少年

殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ
殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ殺セ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
シイコノ便利便利嫌ダコンナ所居タクナイ皆、皆死ンデシマエグラ
ゲラグラゲラゲラゲラゲラゲラゲラゲラ殺セ抉レ皆殺シダ
ドラダコレガオレノ俺ノ私ノ姿ヲ見ルナ殺シテ助ケテオキヤハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
デ殺セ殺セ誰お母サンお父サン嫌ダコンナ所居タクナイ皆、皆死ン
デシマエグラゲラゲラゲラゲラゲラゲラゲラゲラ殺セ
抉レ皆殺シダドラダコレガオレノ俺ノ私ノ姿ヲ見ルナ殺シテ助ケテ
オキヤハハハハハハハハハハハハハハ死ニタイ生キル価値ナン
テナイ此方ニ來イ殺サナイデ殺セ殺セ誰力才碎力ナインデ私ノ頭返シ
テ私ノ頭チョウダイ命ヲ人間メ人間メ私ヲ見ルナドイダこの力貴様
モ来イ鬪キヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
母サンオ兄チヤン助ケテ分カルマイコノ苦シミ一緒ニ死ノウ一緒ニ
生キヨウ君モ此方ヘ來イ來イ

一緒に遊ぼうよ

あそぼうよ

アソボウヨ

ただ永遠と押し付けられる（・・・・・）怨嗟の輪転ははや四年、サンオ兄チャン助ケテ分カルマイコノ苦シミ一緒に死ノウ一緒に一生キヨウ君モ此方へ来イ来イ

一緒に遊ぼうよ

あそぼうよ

アソボウヨ……

ただ永遠と押し付けられる（・・・・・）怨嗟の輪転ははや四年、人の数だけ光があり闇がある

「四年……四年もたつたのか」

自分にとつてはもつと長い時間に感じられた一日一日が地獄で肉体

についていけない精神の性でなんど壊れかけたか（・・・・・）
数えるだけでバカバカしい。それでもあいつ等が笑つていられると思えば……その信念だけが自分を『零崎 紅夜』を支えてくれる唯一の柱

「あいつら、元気にしているかな」

四年も会っていないこんな世界にいるとただ負の念のみしか感じなくゲイムギョウ界で起きていくことが分からぬ

ただ……三年前からゲイムギョウ界から送られる負の念が多くなっていることが気掛かりだ。あいつらとくにネプテューヌは仕事してるだろうか

ふと、この屋敷のテラスに出て外の風景を眺める血の色をした夜、闇色の大地に蠢く紅の影、ijiはゲイムギョウ界あつかが天国としたらこじ（冥獄界）は地獄だな

「…………ん？」

暫くこんな汚く穢れた風景を眺めていると大地に蠢いていたモンスターの姿が消えた

「違法ディスクまだ残っていたのか……？」

ネプテューヌ達の前に女神をしていたマジュコンネがばら時いたと
いう違法ディスクそれは元々アイツ（・・・）が作ったものでゲイムギョウ界と冥獄界の境界に干渉し冥獄界のモンスターをゲイムギョウ界に転送させる為のアイテムだもつ全て破棄させたと思つたの
だが・・・

「……俺がいかなくとも大丈夫だる女神がなんとかしてくれる」

そんな考えの中、再び玉座に戻り座る今は冥獄神ブラックティーハートとして人々の絶望を受け入れないといけない。その行為に慣れないといけない

慣れない限りは俺はゲームギョウ界に行けない迷惑がかかる

相変わらず耳元に訴えられる人々の怨嗟にため息ができるこの世界に来て少しアソツ（・・・）はこの世界を去ったアソツ（・・・）この両方の世界の住民ではないしあつちもあつちでかなり多忙なそうで四年ぐらい出張と元気良くなつていつた

「…………」

後ろに体重を掛け赫灼に輝く自分の得物を眺める。これが今の自分が送っている日常

・・・・・

「ん・・・？」

昼寝でもしようと思ったがまた負の念が響いた・・・これは嘆きだ悲しき助ける求める声、今まで聞いてきたその嘆きに何故か俺は

その声に耳を澄ます

・・・・・

とても、とても懐かしい声だった

「…………」めん言ひつけ破る

尋常な無いことは分かつだから俺はアイツ（・・・）に貰つた不可思議な形をし紅い宝石が埋め込まれたイヤリングを握り呴く

空いでいる手を上空に突き上げると同時に馴染んだ重さを感じそれを回転させ持ち手を交代し左肩に置く

腰に巻き付けてくるホルダーに一つの緋色の拳銃があるのを確認し前方に手を向ける

その先には闇が発生してそれはブリックホールのように渦巻き始める

「…………」

ふと横に飾られていた悪趣味なデザインの鏡が目に入るやうに写つてこるのは自分の変わり果てた姿

右顔と銀から黒に変わってしまった髪を残し肌を全て隠すよつて包帯で巻かれている自分の姿

人々の怨嗟とモンスターの獣吼によりまともに寝れるわけなく田の周囲は黒ずみ死者のような蒼き瞳が冷たく光る

「あーつらは…… 変わらないでほしいな」

そう願いながら異常が起きたであるつゲイムギョウ界に旅立つ

だが俺はそのとき知らなかつた守ると決めたネブテューヌ達は囚われの身にゲイムギョウ界はマジコーンネの手により無法と化した世界になつているなんて

そんな絶望を希望に変えるための物語が今ここ始まった

田代 覚める冥獄神『ブラックディーハート』（後書き）

アッシュはまだ出て来ないです忙しいですから
次回は・・・プラネットユースかな?ラステイションでも回しやすい
ですが・・・迷い中

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9114y/>

超次元ゲームネプテューヌ～絶望はこの身に希望は我が手の中に～
2011年11月27日10時54分発行